

## 平成21年5月期 第3四半期決算短信(非連結)

平成21年4月10日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 中北製作所

コード番号 6496 URL <http://nakakita-s.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中北 健一

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役・管理部門管掌並びに経理部長 (氏名) 大平 文人

TEL 072-871-1331

四半期報告書提出予定日 平成21年4月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年5月期第3四半期の業績(平成20年6月1日～平成21年2月28日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年5月期第3四半期	20,841	—	2,215	—	2,221	—	925	—
20年5月期第3四半期	18,317	15.4	1,951	23.4	1,967	21.3	1,096	21.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年5月期第3四半期	48.30	—
20年5月期第3四半期	57.26	—

## (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
21年5月期第3四半期	26,407	—	16,273	—	61.6	—	849.81	
20年5月期	24,184	—	16,050	—	66.4	—	838.11	

(参考) 自己資本 21年5月期第3四半期 16,273百万円 20年5月期 16,050百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年5月期	—	15.00	—	15.00	30.00
21年5月期	—	15.00	—	—	—
21年5月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年5月期の業績予想(平成20年6月1日～平成21年5月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,500	9.0	2,700	12.8	2,700	11.4	1,235	△2.1	64.49

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

##### (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

##### (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

##### (3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年5月期第3四半期	19,164,000株	20年5月期	19,164,000株
② 期末自己株式数	21年5月期第3四半期	14,201株	20年5月期	12,887株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	21年5月期第3四半期	19,150,573株	20年5月期第3四半期	19,151,607株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当該事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

2. 上記業績予想は、現時点において入手可能であり、かつ合理的と判断される情報に基づき作成したものであり、世界経済、為替相場変動等の様々な不確定要因により、実際の業績は予想数値と異なる可能性があります。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、米国におけるサブプライムローン破綻に端を発する金融危機が实体经济に急速に影響を及ぼし、自動車産業の減産や販売不振、消費不況、民間設備投資の減少、さらには派遣労働者のみならず正社員にも雇用の調整が進展するなど、本格的な景気後退の局面に突入しました。原油や資源・素材価格の高騰は収まりつつありますが、為替面での円高傾向の定着や株式市況の低迷・信用の収縮等もあり、わが国を取り巻く環境はさらに厳しくなるとともに不透明さを増してまいりました。

このような経営環境にあつて当社は、主要な販売先であり豊富な受注残を抱えております造船業界において、積極的な受注活動を展開いたしましたが、年明けからは新規案件の引き合いがほとんどストップするなど様子見状態にあります。一方陸上部門では、実績のあるガスタービン用バルブや今後期待される原子力発電プラント関連の受注にも注力いたしましたが、思うような成果は得られませんでした。また、社内生産部門におきましては、工程管理の精度アップと生産性向上を目指したコンピューターシステム（新NAPS）が、初期の混乱を脱しつつあり、生産実績は順調でありました。

この結果、当第3四半期累計期間における受注高では、18,250百万円（対前年同期比23.2%減）と前年同期を下回り、上記の通り年明けからの受注低迷が明らかな結果となりました。品種別では、自動調節弁6,754百万円、バタフライ弁6,198百万円、遠隔操作装置5,298百万円となり、金額ベースの対前年同期比で、それぞれ651百万円減、2,450百万円減、2,427百万円減でありました。

売上高では、増産への取り組みが功を奏し20,841百万円（対前年同期比13.8%増）を計上し、順調に数字を積み上げることができました。品種別においては、自動調節弁6,951百万円、バタフライ弁7,511百万円、遠隔操作装置6,287百万円、不動産賃貸収入92百万円となり、不動産賃貸収入を除いて、すべて前年同期を上回りました。この結果、第3四半期会計期間末の受注残高は期首に比べて2,499百万円減の24,975百万円と減少傾向になりました。

利益面におきましては、経常利益で2,221百万円（対前年同期比12.9%増）を計上し順調でありましたが、株式市場の急落を受け特別損失として、投資有価証券評価損613百万円を計上したこともあり、四半期純利益では925百万円（対前年同期比15.4%減）となりました。

### 2. 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比べ2,223百万円増加の26,407百万円となりました。

これは、売上の増加による売掛金の1,033百万円増加と、生産高の増加に伴う材料手当等により棚卸資産が1,083百万円増加したことが、主要な要因であります。その一方、株式市場の低迷により投資有価証券が826百万円減少しました。負債の部では、新溶接工場・駐車場建設等一時的な設備資金手当や運転資金確保のため短期借入金が2,600百万円増加しました。

純資産の部では、利益剰余金の増加を株価低落による有価証券評価差額金の減少が打ち消したこと等により、結果的に223百万円の増加となりました。

### 3. 業績予想に関する定性的情報

平成21年5月期の業績予想につきましては、第2四半期決算短信で平成21年1月13日に公表いたしました予想と変更無く、売上高275億円、営業利益27億円、経常利益27億円、当期純利益1,235百万円の見通しであります。国内外の経済情勢は、上記のとおりますます不透明な状況になってきておりますが、現時点では年間計画を達成できる予定であります。なお、当期純利益につきましては株式市場の影響を大きく受けるため、現状では見積り困難な状況となっておりますことにご留意いただきますようお願いいたします。

### 4. その他

#### (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

##### 1. 棚卸資産の評価方法

当第3四半期会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前事業年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

##### 2. 固定資産の減価償却費の算定方法

事業年度に係る減価償却費の額を按分して算定する方法によっております。

### 3. 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

### 4. 税金費用の計算

当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

## (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

1. 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

2. 通常の販売目的で保有する棚卸資産については、従来、主として個別法による原価法によっておりましたが、第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

この変更による損益に与える影響はありません。

5. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年2月28日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,132,366	2,610,554
受取手形及び売掛金	12,111,850	11,022,707
有価証券	599,172	—
製品	1,346,732	875,228
原材料	1,769,733	1,629,860
仕掛品	1,413,900	941,501
その他	1,020,613	973,832
貸倒引当金	△62,860	△57,770
流動資産合計	20,331,508	17,995,915
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,549,166	1,549,166
その他	2,387,606	1,827,831
有形固定資産合計	3,936,772	3,376,997
無形固定資産	332,357	279,414
投資その他の資産		
投資有価証券	1,110,767	1,936,833
その他	698,135	597,570
貸倒引当金	△2,157	△2,306
投資その他の資産合計	1,806,745	2,532,097
固定資産合計	6,075,875	6,188,509
資産合計	26,407,384	24,184,424
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	550,125	983,511
買掛金	3,496,189	3,394,966
短期借入金	4,470,000	1,870,000
賞与引当金	141,000	286,000
役員賞与引当金	14,260	30,410
未払法人税等	383,304	497,940
その他	537,200	392,889
流動負債合計	9,592,080	7,455,718
固定負債		
退職給付引当金	458,601	573,188
役員退職慰労引当金	73,980	95,750
その他	9,000	9,000
固定負債合計	541,581	677,938
負債合計	10,133,662	8,133,657

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年2月28日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,150,000	1,150,000
資本剰余金	1,479,586	1,479,586
利益剰余金	13,644,972	13,294,452
自己株式	△6,814	△6,148
株主資本合計	16,267,744	15,917,890
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,977	132,876
評価・換算差額等合計	5,977	132,876
純資産合計	16,273,722	16,050,767
負債純資産合計	26,407,384	24,184,424

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 平成20年6月1日 至 平成21年2月28日)
売上高	20,841,213
売上原価	16,976,240
売上総利益	3,864,973
販売費及び一般管理費	1,649,334
営業利益	2,215,638
営業外収益	
受取利息及び配当金	53,178
雑収入	9,191
営業外収益合計	62,370
営業外費用	
支払利息	23,748
為替差損	12,575
雑損失	20,140
営業外費用合計	56,464
経常利益	2,221,544
特別損失	
投資有価証券評価損	613,092
特別損失合計	613,092
税引前四半期純利益	1,608,452
法人税等	683,405
四半期純利益	925,047

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

（3）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（4）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。



「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期損益計算書

前第3四半期累計期間(平成19年6月1日～2月29日)

科目	前年同四半期 (平成20年5月期 第3四半期)
	金額(千円)
I 売上高	18,317,657
II 売上原価	14,872,501
売上総利益	3,445,155
III 販売費及び一般管理費	1,494,013
営業利益	1,951,141
IV 営業外収益	53,918
V 営業外費用	37,571
経常利益	1,967,488
VI 特別損失	37,834
税引前四半期(当期)純利益	1,929,653
法人税、住民税及び事業税	833,100
四半期(当期)純利益	1,096,553

## 6. 生産、受注及び販売の状況

### 1. 生産実績

(単位 千円)

期 別 品 種	20年5月期第3四半期(19/6～20/2)		21年5月期第3四半期(20/6～21/2)		20年5月期(19/6～20/5)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
自動調節弁	6,365,059	37.3%	7,065,491	33.5%	9,272,932	37.1%
バタフライ弁	5,782,221	33.9	7,634,596	36.2	8,047,807	32.2
遠隔操作装置	4,905,711	28.8	6,399,438	30.3	7,659,440	30.7
合 計	17,052,991	100.0	21,099,525	100.0	24,980,179	100.0

### 2. 受注状況

#### 受 注 高

(単位 千円)

期 別 品 種	20年5月期第3四半期(19/6～20/2)		21年5月期第3四半期(20/6～21/2)		20年5月期(19/6～20/5)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
自動調節弁	7,404,794	31.1%	6,753,679	37.0%	10,011,839	33.9%
バタフライ弁	8,648,443	36.4	6,198,153	34.0	10,012,328	34.0
遠隔操作装置	7,725,273	32.5	5,298,266	29.0	9,473,253	32.1
合 計	23,778,510	100.0	18,250,098	100.0	29,497,420	100.0

#### 受 注 残 高

(単位 千円)

期 別 品 種	20年5月期第3四半期 (20/2)		21年5月期第3四半期 (21/2)		20年5月期 (20/5)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
自動調節弁	6,052,062	21.2%	5,943,379	23.8%	6,140,515	22.4%
バタフライ弁	12,039,186	42.0	10,182,434	40.7	11,495,311	41.8
遠隔操作装置	10,550,470	36.8	8,849,310	35.5	9,837,900	35.8
合 計	28,641,718	100.0	24,975,123	100.0	27,473,726	100.0

### 3. 販売実績

(単位 千円)

期 別 品 種	20年5月期第3四半期(19/6～20/2)		21年5月期第3四半期(20/6～21/2)		20年5月期(19/6～20/5)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
自動調節弁	6,797,863	37.1%	6,950,815	33.4%	9,316,455	37.0%
バタフライ弁	6,178,219	33.7	7,511,030	36.0	8,085,979	32.0
遠隔操作装置	5,248,753	28.7	6,286,856	30.2	7,709,303	30.5
不動産賃貸収入	92,822	0.5	92,512	0.4	123,660	0.5
合 計	18,317,657	100.0	20,841,213	100.0	25,235,397	100.0